

# 平成30年7月豪雨災害からの柑橘産地復興に向けた取組み

——愛媛県JAえひめ南玉津共選と(株)玉津柑橘倶楽部——

主席研究員 尾高恵美

農林水産業にも甚大な被害をもたらした平成30年7月豪雨災害(以下「豪雨災害」)から1年が経過する。愛媛県宇和島市吉田町玉津地区では、被災した柑橘産地の復旧・復興に向けて生産者組織が中心となって取り組んでいる。

## 1 良食味の柑橘産地

豪雨災害による愛媛県の農業被害額は475.3億円で、市町村別には宇和島市が215.6億円で最も大きかった(2019年3月20日現在)。

玉津地区は、宇和島市内でも柑橘農業の被害が大きかった地区の1つである。法花津湾<sup>ほけづ</sup>を臨む海岸沿いの急傾斜地にある石灰質土壌の樹園地は、日照と水はけがよく、温州ミカンをはじめとする柑橘果実の良食味産地として知られている。

地区の樹園地の5割では、南予用水から取水しスプリンクラーを使って防除やかん水作業を行っている。また、急傾斜地にあるため、樹園地からの収穫物等の運搬にはモノレールを利用している。

「玉津共選」は、玉津地区を管内として共同選果場を運営するJAえひめ南の柑橘生産部会である。180戸が加入して、5,500トン前後を出荷している。近年、温州ミカン価格の回復に伴って経営が安定してきたこともあり、4分の1の農家では後継者が就農している。

## 2 緊急対応で販売額の落ち込みを挽回

玉津地区では、豪雨により土砂崩れが多発し、樹園地や樹体、農道、スプリンクラーや

モノレールといった生産基盤が大きな打撃を受けた。

土砂崩れにより用水の配管が破損し、スプリンクラーを設置している樹園地の7割が影響を受けた。スプリンクラーを利用できない樹園地では、防除やかん水を手作業で行った。さらに農道が壊れて通行できない園地では、試験的にドローンを使って防除した。モノレールが破損した園地では、多くのアルバイトの助けを借りて収穫した柑橘果実の運搬を行った。

収穫した果実のなかには、適期に防除できなかったため、黒点など外観の優れないものが少なからずあった。玉津共選では、生産者の収入減少を緩和するために、光センサーによる検査を行い、外観はよくないが糖酸度は正品と同等のものを選抜した。これを正品とは別に、生産者のメッセージを記載した特別の段ボールで販売した。

このように、多くのアルバイトの受入と販売方法の工夫といった緊急対応により、2018年産の販売額は、発災直後の想定より小幅な落ち込みに踏みとどまった。

## 3 樹園地の復旧で未収益期間が課題

樹園地の復旧には、比較的長い年月が必要となる見込みである。玉津地区の樹園地402haのうち95haが崩落や土砂の流入により被災した。広範囲に崩落した法花津と白浦では、大規模に造成する「再編復旧」を行うことで地権者や耕作者がおおむね合意した。

再編復旧は、樹園地を団地化して緩傾斜地



復旧作業に取り組む玉津地区の若手生産者  
(写真：玉津柑橘倶楽部ウェブサイト  
<https://kankitu-club.com/>より転載)

にすることにより、作業性の向上が期待できる。一方で、2年後に着工し、完成して成園化するまで、10年程度かかると見込まれている。「農地中間管理機構関連農地整備事業」を活用するため生産者の負担はなく、全期間を通して収穫がゼロになるわけではないものの、収入減少への対策は大きな課題である。

玉津共選では近隣地域の農業委員会に相談して代替地を確保したり、復旧後の定植に向けて、次に述べる玉津柑橘倶楽部が大苗を育苗するなど、未収益期間対策に取り組んでいる。

## 4 株式会社玉津柑橘倶楽部を設立

### (1) 若手後継者がメンバー

玉津地区柑橘産地の元気な姿を、50年先100年先まで継続することを理念として、19年12月に「株式会社玉津柑橘倶楽部」が設立された。災害が契機となって、数年前からの構想を実現した。出資者5人を含む構成員12人は、全員が40歳未満の若手後継者である。設立後間もないが、復興に向けて主に次のような活動を実施または計画している。

### (2) 園地復旧に向けた機械の共同利用

樹園地に流入した土砂の撤去や改植作業を行うため、重機や運搬車が必要となる。そこで、同社がレンタル会社から月単位で借りて、

生産者に1日単位で貸し出している。一般的にレンタルでは、契約期間が長いほど1日当たりの料金は低くなるためである。

共同利用している機械はバックホーとダンプトラックが2台ずつで、希望日が重複した場合には、作業内容により変更可能な生産者が日にちを前後させることで対応している。

### (3) 消費者に直接届けるルート作り

果実や加工品といった商品と産地の情報を、消費者に直接届けるルートを作ることも同社の設立目的の1つである。同社では、玉津共選から原料果実を購入し、近隣の搾汁工場に委託して、温州ミカンと宇和ゴールドのジュースを製造した。クラウドファンディング支援者に返礼品として贈呈したり、復興応援イベントや同社のウェブサイトで直接販売している。今後は、支援者等にSNSで復興状況を情報発信することも検討している。

### (4) 生産者とアルバイトのマッチング

18年産では、アルバイトの受付と手伝いを希望する農家とのマッチングを、被災した1人の生産者が行った。19年産からは、宿泊施設の管理を含めて同社が引き継ぎ、アルバイトの受入れを続ける予定である。

### (5) リタイア園地を新規参入者に引き継ぐ

管内では、豪雨災害の影響でリタイアした農家は1戸にとどまったが、同社では、将来、受け手のみつからない樹園地が出てきた場合に、受け皿となることも視野に入れている。受託した樹園地に、新規参入希望者を受け入れて、同社構成員や玉津共選部会員が栽培指導しながら育成し、独立を支援することを想定している。

若手後継者をメンバーとする独立した組織である同社が、柑橘産地の一日も早い復旧・復興に向けて、今後も機動力を生かして取り組んでいくことを期待したい。

(おだか めぐみ)